

NPO 法人大阪障害者センター・ I C F 検討会合同研修事業

「本人主体の個別支援計画」作成のための  
2017年度ファシリテーター  
養成研修

主催； N P O 法人大阪障害者センター

協力； 大阪健康福祉短大

事務局； 〒558-0011 大阪市住吉区菟田5-1-22

電話 06-6697-9005 F A X 06-6697-9059

## ご案内

障害者総合支援法の一部改定によって、本年4月から、相談支援事業者による「サービス利用計画」の策定により、支給決定が行われ、その後、その支給決定に基づき、利用計画が再策定され、その計画に基づき、個別事業所が「個別支援計画」を策定、サービス調整会議におけるモニタリングの実施が行われることになっている。この手続き変更により、「個別支援計画」の策定がますます形骸化することも予想されるとともに、「サービス利用計画」そのものが、極めて機械的なものとなることなども懸念されています。

このセンターのこの研修は、長年にわたってICFを用いた個別支援計画の在り方を検討してきた検討会の成果として出版された「ICF を活用した自立支援プログラム」を題材にその作成過程を通して、障害者支援の現場において「本人中心型の支援計画」とは何か、その意味と意義について理解し、各職場でそれらを実践できるファシリテーターを担える人材を養成することを目標としています。加えて今後課題となる「高齢期の障害者」を考えると、心身機能や構造の変化等を詳しく知って支援していくことが求められます。その意味で、ICFの提起するものをよく理解して、活用していくことも大切です。

業務など各種条件の厳しい中ではありますが、新たな課題に積極的に対応する現場職員としての資質向上のため、是非積極的なご参加を期待しています。

対象者；主任・サービス管理責任者

受講料；加盟施設職員 無料（未加盟一般施設職員 3万円）

会場；大阪障害者センター 会議室

定員；15名（基本的には法人・施設からの推薦者を優先します。少数精鋭方式のため、定員になり次第募集を締め切ります。）

### 【研修の骨子】

参加者が各職場から事例を持ち寄り、相互に事例検討を行う。その際、ワークブックにある5つの視点を基に検討を進めていく。1回の研修会で1つの視点について検討し、5つの視点での検討を重ねていく。その後、支援計画を作成、報告する。さらに、各職場で支援計画に基づいて実践したものを分析・考察していきます。

職場の事例を基に、体験的に学び、ICFを活用した個別支援計画の有効性を実感として得ることを目標とします。

### 【研修用テキスト】

※本人主体の「個別支援計画」ワークブック：かもがわ出版

・必ず購入して持参ください。

◆研修内容及びスケジュール

第1回 <研修時期・担当>6月13日(火)PM 13:00~17:00 情報整理シート

担当:石田京子

「個別支援計画」にICFを用いることの意義とワークシートの意味と使い方を理解し、心身機能・構造と活動・参加との関連を学ぶ。その上で、活動・参加を実際に記述していく。

- ① ICFを用いた個別支援計画の意義について理解する  
※モデルケースの紹介
- ② 選択するケースのポイント  
※なぜこのケースを選ぶのか、課題は何かを鮮明に
- ③ 7つのワークシートの意味と使い方の概観と流れを理解する
- ④ 心身機能と、活動・参加の関連の意味を理解する
- ⑤ 情報整理シートの使い方を理解する（客観的情報を捉える）
- ⑥ 活動と参加を捉える視点を理解する。
- ⑦ 情報整理シート（活動と参加）への記入。<演習>
- ⑧ まとめ（理解度の確認）

※オリエンテーション「なぜ、今ICFの活用が求められるのか（福祉・医療の情勢から）」

第2回 <研修時期・担当>7月11日(火) PM13:00~17:00 情報整理シート

担当:石田京子

- ① 前回研修の振り返り
- ② 情報整理シートの書き方おさらい
- ③ 情報整理シート〔活動と参加〕への記入。<演習>
- ④ グループワーク（グループ内で報告）
- ⑤ 情報整理シート〔活動と参加〕から、課題に関連すると思われる〔心身機能・身体構造〕を捉え記入していく。<演習>
- ⑥ まとめ（到達の確認、理解度の確認）

第3回 <研修時期・担当>8月25日(金) PM13:00~17:00 情報整理シート ICF関

連図

担当:小田 史

【テキスト・ワーク2】「広い概念：障害と、障害以外をとらえる」

- ① 前回研修の振り返り（〔活動と参加〕と〔心身機能・身体構造〕の関連の理解）
- ② テキスト【ワーク2】レクチャー、「障害と、障害以外をとらえる」ことの意味
- ③ ICF 関連図の意味と書き方の理解
- ④ 情報整理シートからICF 関連図へ転記（演習）
- ⑤ ICF 関連図の線引き（演習）
- ⑥ まとめ（到達の確認、理解度の確認）

第4回 **<研修時期・担当>10月3日(火) PM13:00~17:00** 情報整理シート ICF 関連



担当：小田 史

【テキスト・ワーク3】「背景因子：その人らしさと、まわりにあるもの」

- ① 前回研修の振り返り（「障害と、障害以外をとらえる」ことへの理解）
- ② テキスト【ワーク3】レクチャー、「環境因子・個人因子」の関連の理解
- ③ 情報整理シート「環境因子・個人因子」への記入（演習）
- ④ ICF 関連図の線引き（演習）
- ⑤ グループワーク（グループ内で報告）
- ⑥ まとめ（到達の確認、理解度の確認）

---

第5回 **<研修時期・担当>10月24日(火) 13:00~17:00**

情報整理シート ICF 関連図 ICF アセスメントシート

担当：小田 史

【テキスト・ワーク5】「プラス思考：正しく見るからプラス思考」

- ① 前回研修の振り返り（「環境因子・個人因子」の関連の理解）
- ② テキスト【ワーク5】レクチャー、「プラスで見ていくことの意義（促進因子と阻害因子の意味）」の理解
- ③ 【テキスト・ワーク4】レクチャー、「統合モデル：持ちつ持たれつの関係」の理解
- ④ ICF アセスメントシートの使い方の理解
- ⑤ ICF アセスメントシートへの記入（演習）
- ⑥ グループワーク（プラス思考で見えたものをグループ内で報告）
- ⑦ まとめ（到達の確認、理解度の確認）

---

第6回 **<研修時期・担当> 11月17日(金) 13:00~17:00**

ICF アセスメントシート 支援計画シート

担当：鴻上圭太

【テキスト・ワーク6】「相互作用：包括的に人を見る」

- ① 前回研修の振り返り（「プラスで見ていくことの意義（促進因子と阻害因子の意味）」の理解）
- ② 【テキスト・ワーク6】レクチャー、「相互作用：包括的に人を見る」ことへの理解
- ③ ICF アセスメントシート「本人の思い（統合）」の捉え方の理解
- ④ ICF アセスメントシート「本人の思い（統合）」への記入
- ⑤ グループワーク（本人の思いとして見えたものをグループ内で報告）
- ⑥ まとめ（到達の確認、理解度の確認）

---

第7回 **<研修時期・担当>11月27日(月) 13:00~17:00** 支援計画シート

＜本人の意欲・希望＞の導きと支援計画立案の方法

担当：鴻上圭太

- ① 前回研修の振り返り（「相互作用：包括的に人を見る」ことの意味と、「本人の思いの見方」の理解）
  - ② 医学モデルと社会モデルの意味の理解
  - ③ <本人の意欲・希望>の捉え方と表現方法の理解
  - ④ 医学モデルと社会モデルへの記入、<本人の意欲・希望>への記入
  - ⑤ グループワーク（医学モデルと社会モデル、本人の意欲・希望としてみえたものをグループ内で報告）
  - ⑥ まとめ（到達の確認、理解度の確認）
  - ⑦ 目標の立て方と、支援計画の書き方レクチャー
- 

第8回 <研修時期・担当>12月1日(金) 13:00~17:00

支援計画シート

個別支援計画シート

担当：鴻上圭太

- ① 前回研修の振り返り（本人の意欲・希望、医学モデルと社会モデルの捉え方の理解）
- ② 支援計画シート、個別支援計画シートの書き方の理解
- ③ 支援計画シート、個別支援計画シートへの記入（演習）
- ④ グループワーク（支援計画シート、個別支援計画シートに記入したものを報告）
- ⑤ まとめ（到達の確認、理解度の確認）

※補講の実施

<時期・担当>

※別途調整

---

第9回 個別支援計画報告会

<研修時期> 年明け 1 月

<本年度研修案のポイント>

- ・ 情勢との絡みや現場の本来の仕事としてICFを活用する意義をしっかりとつかむ
- ・ 個々の参加者の確信や自信につながるような支援を行う
- ・ 宿題にしても、やってこれない→一回の研修時間を長く取り、ワークシートへの書き込み等は研修時間内で行う。基本的に宿題にしない。
- ・ 毎回の研修で、「前回の復習」「今日の研修のポイント」を講義し、「今日の到達目標」を示す。そして演習をして、最後に「まとめ(到達の確認・今日の研修の理解度の確認)」を行う。
- ・ 毎回の研修で、その日に取り扱うテーマのポイントをまとめた資料を作成する。
- ・ 事例を取り扱う段階では、「見ていく視点」をあまり広げずに、当面の課題と思われることに関連する部分に視点を絞る(小さくても良いので、客観的情報を統合することによって、新たな「その人像」が見えてくる経験や、人間はあらゆる相互作用によって、「現在の姿像がある」ということが理解できた経験をすることを目標の一つとする。→よって、最初の情報収集の段階(情報整理シートへの記入の段階)では、活動・参加をまずしっかり記入していく(ここに時間をかける)。

- ・ しかし、ICF の項目を使って、対象者を客観的に捉えなおすという見方になれておらず、慣れるまでに時間がかかる。「客観的に捉える」という見方の方法を丁寧に説明する必要がある。
- ・ 精神機能分類シートの活用方法とレクチャーのタイミングを調整する。
- ・ 最終時に、「修了書」(連番登録番号付記)を授与し、その後の研修等の機会を設ける。

## 会場案内図

公共交通機関をご利用の方；地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車、徒歩約 10 分。

大阪市営バス「苺田小学校前」下車、徒歩約 2 分。



2017年度ICFファシリテーター研修申込書

推薦者氏名		施設名	
連絡先			
電話		FAX	
受講者氏名		施設種別	
現在の職歴		職歴	
受講動機			